小学校におけるICTを活用した体育授業の実践研究

学籍番号　219131
氏　名　吉成　知晃
主指導教員　寺嶋　浩介
副指導教員　佐々木　靖

1. 背景

学校の「体力面」の課題として「児童の全体的な体力の向上」「健やかな体の育成」が必要であり、「できた、またやりたい」という肯定的な体育授業の改善が必要であると分かった。つまり、体育授業の質を良くすることで子どもの「体力面」の課題を改善できると考える。また、令和 2 年度から各学校に 1 人 1 台端末の整備が実現し ICT 活用の重要性が高まったことから、「体力面の課題解決に ICT を活用できないか」と考えた。

2. 先行事例の分析

体育や ICT 活用に関する授業実践について書かれた書籍を読み分析を行なった。これらの先行事例の分析を「目的」と「方法」に整理し、授業実践に活用していくことにした。

全体の計画として、「動画の活用」を中心とした体育授業を行っていき、必要に応じてその他のICTの活用も随時行っていく。ポートフォリオを作成したり、自己の課題分析をしたりと「動画の活用」には、複数の活用方法が見出せると考えたからである。学期や単元ごとに、授業の実践を振り返り、課題を解決していくようにして、段階を追って授業実践を重ねていきたい。

3. eポートフォリオの活用（2021.10～2021.12）

毎時間の運動の記録を動画で撮影したり教師の説明でICTを使ったりして授業を進めた。授業において撮影した児童の運動動画をタブレット端末を使って、毎時間クラウドに保存していった。単元の最後に撮り溜めた動画とワークシートなどを 1 つにまとめてeポートフォリオの作成を行った。

教師の基本的な授業スキル、学習規律、時間的な限界、児童のタブレットの基本操作などである。ICTを活用する上で、運動時間の確保が難しくなるということがわかった。そこで、準備や教師の説明時間の短縮を行なったが、それでも時間的な課題が残った。また、学級により学習規律やタブレット操作の技能が異なっており、授業における基本的な要素を授業者と学習者が持っている必要があるとわかった。

4. 運動量の確保(2022.1～2022.3)

体育の授業ではそれぞれの運動領域にある面白さをまずは児童に感じさせてから練習に入っていくことが必要であると分かった。子ども自身が自ら考えて体育に取り組むには、その種目に対する興味関心を最大限まで高めてあげる場の設定が必要である。

5. 効果的な動画の活用（2022.4～2022.7）

児童の動画分析の際に教師から「動画をみる視点」を与えることで、児童自身の課題が明確になり、課題別の場の設定で練習がより効果的となった。ふりかえりシートでは、書く観点を与えたので、その観点に沿って振り返ることができた。特に、昨年度は少なかった「友だちからの学び」についての記述を増やすことができた。しかし、欠席児童の対応や課題別練習後の評価がないなどの課題が出た。

6. 自己の課題設定と他者評価（2022.11）

児童の課題別練習の後に、他者からの評価を行ったが、その記述から次のようなことがわかった。ほとんどの子どもが「できているところ」と「次の課題」の両方の記述を書くことができていた。他者評価により、自分の課題や新しい課題等を発見することができたが、具体的にその課題をどうやって解決していくのかというアクションプランを設定させることが必要であることがわかった。

7. まとめ

動画の活用の流れは、「動画撮影」「課題分析」「課題別練習」「他者評価」である。この流れを子どもたち自身が慣れていくことで時間の短縮にもつながっていくことがわかった。筆者の実践研究では、主に陸上運動での実践となった。ボール運動や器械運動でも、この動画の活用方法ができるのかを実践していかなければならない。他の運動領域での応用が課題である。また、「動画を見る視点」を教師から提示するのではなく、子ども自身に見つけさせることによって、生涯におけるスポーツとの関わり方を学ぶことが必要である。